

熊本大学国際化推進センターニュース

The News Letter of the Center for Globalization, Kumamoto University

谷口学長、忠北大学校(韓国)との大学間交流協定調印式に出席

5月2日から4日にかけて、谷口功学長をはじめとする本学訪問団が韓国の忠北大学校(忠清北道清州市)を訪問しました。忠北大学校は、韓国国内の大学ランキングにおいて国立大学として Top20以内に位置付けられており、13の学部と8の大学院を有する総合大学で、本学とは3年以上にわたり数多くの交流実績があります。

5月3日に大学間交流協定の調印式が行われ、その後、谷口学長が金承澤(Kim Seung-Taik) 総長と懇談しました。このほか、本学訪問団は大学病院など忠北大学校内の各施設を視察しました。忠北大学校の産学連携研究棟では、エネルギーを効率的に使用できる研究についての説明を聞くなど、今後の学術交流促進につながる有意義な訪問となりました。今回の訪問では、合同のワークショップ開催や、教育プログラムの開発など両大学の今後の具体的な交流について意見交換を行い、さらに友好関係を強めていくことで合意しました。



調印式後の記念撮影



金総長との会談

新・上海オフィス(熊本上海事務所)始動 —上海オフィス便り①—



熊本上海事務所の皆さん
後列左から、
吉田二浩さん(熊本県職員)
中浦和一さん(顧問)
杉本幸生さん(熊本市職員)
前列左から、
陸曉艶さん(アシスタント)
何海洋さん(専門員・熊本大学担当)
姚双惠さん(工業アドバイザー)

本学初の海外オフィスとして平成17年に開所した上海オフィスは、熊本県、熊本市及び本学の3機関共同による熊本上海事務所として平成23年10月に再スタートしました。新しい上海オフィスは、近年高い経済成長を遂げ市場としての魅力が高まっている中国をはじめとした東アジア諸国におけるビジネス支援や観光客誘致、また、留学生獲得などの拠点として今後、大いに期待されるものです。

上海オフィスの主な業務は、次のとおりです。

- ①中国交流協定校等との学生交流・学術交流の促進
- ②留学生の開拓及び留学予定者に対する渡航前準備の支援
- ③産学官国際連携活動の促進の支援
- ④大学情報及び入試情報の発信、広報活動の支援
- ⑤同窓会の支援拠点
- ⑥熊本県・熊本市と協力して、中国における熊本の広報活動及び Benefitにつながる共同事業の支援

現在、本学は中国の39機関と国際交流協定を締結しています。上海オフィス設立後、協定校との友好な交流を深めるため、4月から6月にかけて、現地職員らが上海周辺の大学(同済大学、上海師範大学、華東政法大学および杭州師範大学など)を訪問。国際交流担当者との面談を行い、有意義な意見交換ができました。

今後、同オフィスは本学の最近の教育研究活動を協定校へ情報発信するとともに、多くの関連行事を通して、更なる交流発展が期待されます。

Welcome to Kumamoto University Liaison Office at ITS! —ITSオフィス便り①—

熊本大学インドネシア ITSオフィスは、平成22年4月にスラバヤ工科大学(ITS) 国際交流室内に設置されました。ITSは、インドネシアの首都ジャカルタに次ぐ第二の都市スラバヤに設立された国立の理工系大学であり、本学と大学間交流協定を締結しています。

ITSオフィスは、東南アジアにおける熊本大学の拠点として、以下のような業務を行っています。

- ①熊本大学や各プログラム(学部・大学院の留学プログラム、サマープログラム、博士後期課程におけるダブルディグリープログラム等)、日本留学に関する情報の発信
- ②交流協定校等との学生交流・学術交流の促進
- ③留学生の開拓及び留学予定者に対する渡航前準備の支援
- ④インドネシアに帰国した熊大卒業生等のネットワーク支援

その他、オフィス訪問者の対応に加え、メーリングリストに登録している約250名の学生・研究者へ本学や各プログラム等の最新情報を頻繁に発信したり、質問への回答や情報交換を行っています。

3月23日及び4月5日には、熊本大学や各プログラムに関する説明会をITSで開催し、合計100名の学生・研究者等が参加しました。説明会では、熊本大学の紹介、奨学金やサマープログラム等の説明後、質疑応答を行いました。参加者は熱心に説明を聞き、積極的に質問するなど、本学や日本文化に対する関心の高さを伺い知ることができました。



ITS での説明会の様子

平成23年度留学生実地見学旅行を実施

2月15日から16日にかけて、島原・雲仙、長崎方面への熊本大学留学生実地見学旅行を実施しました。この見学旅行は、日本の歴史・文化等についての理解を深め、留学生間の親交を深めることを目的として、本学で学ぶ留学生とチューターを対象に毎年企画しているもので、20カ国の留学生117名とチューター1名が参加しました。

初日は熊本港から島原港へとフェリーで移動し、雲仙岳災害記念館や島原武家屋敷、雲仙地獄などを見学しました。フェリーでの移動中には、出船と同時にカモメの群れに遭遇し、フェリーのすぐ近くまで寄ってくるカモメに多くの留学生が目奪われていました。雲仙岳災害記念館では、火砕流・土石流の擬似体験などをとおして、自然の驚異と災害の教訓を学びました。また、島原城西側に残る江戸時代さながらの武家屋敷跡や、至る所から高温の温泉と噴気が激しく噴出し、湯けむりがもうもうと立ちのぼる雲仙地獄を散策しました。

二日目は、雲仙から長崎市へ移動し、グラバー園、出島を見学しました。幕末の異国情緒漂うグラバー園、鎖国時代に西洋に開かれた唯一の窓口として日本の近代化に大きな役割を果たした出島を散策し、当時の日本の伝統・文化、貿易拠点としての長崎の歴史を学び、帰路につきました。

出発時には小雨交じりの天候も島原到着後には雨も上がり、天候にも恵まれた二日間をとおして、本学留学生にとって日本の歴史・文化等への認識を深めるとともに、日ごろ顔を合わせることが少ない他部局の留学生と親交を持つ良い機会となり、次回の開催を心待ちにしているという留学生の声も聞かれました。



グラバー園での記念撮影

培材大学校訪問団が谷口学長を表敬訪問

5月23日、本学と大学間交流協定を締結している韓国の培材大学校から、金永浩(Kim Young-Ho) 総長以下4名の訪問団が谷口学長を表敬訪問しました。

培材大学校と本学は、平成11年に部局間から大学間へ交流協定を拡大し、相互に相当数の研究者や学生の交流を行うなど、多様な交流活動を展開しています。

今回の訪問は、自然科学研究科とのダブルディグリーの覚書締結など交流をさらに活発化する目的で実現したもので、今後とも両大学の良好な関係を発展させるとともに、学生交流及び教員交流を着実に推進することで意見が一致しました。

表敬後に訪問した熊本大学衝撃・極限環境研究センターでは、実験施設の見学及び衝撃エネルギーの共同研究に関する情報交換がなされ、大変有意義な訪問となりました。



培材大学校訪問団と谷口学長

平成24年度TOEFL講座開講

5月20日、平成24年度 TOEFL講座を開講しました。本講座は、交流協定校への交換留学等、本学学生の海外派遣を推進し、留学準備のための英語力向上を目的とした課外講座です。今年度は、毎週水曜と木曜に全15回行いました。今回の受講者は20名で、TOEFLスコアが必要な英語圏への留学を希望している学生が多数参加しました。ネイティブ講師による授業と、毎回課される課題に、受講者は真剣に取り組んでいました。

受講者は、本講座開始前と終了後、全員 TOEFL模擬テストを受験し、今年度末までに TOEFL本試験を受験してスコアを提出することになっています。本試験のスコアをもとに講座を終えた後の各自の英語能力向上について確認します。



授業風景

平成23年度「熊本大学若手国際共同研究スタートアップ支援制度」参加報告



生命科学研究部(薬学系)
機能分子構造解析学分野
助教 中村照也

私は、平成23年4月～8月までの間、米国立衛生研究所(NIH)のWei Yang博士研究室で研究を行いました。Yang博士は、私の専門分野である構造生物学において世界的に著名な研究者で、DNAに働くタンパク質の研究について一流誌に成果を発表し続けておられます。派遣先では、他にも構造生物学の研究室が4つもあって、実験やセミナーによる交流が非常に盛んであったり、NIHが定期的開催する講演会でノーベル賞受賞者3名の講演を聴くことができたりなど、日々研究意欲を刺激されながら過ごすことができました。

本派遣では、X線結晶構造解析を用い、ヒトのDNA合成酵素(ポリメラーゼ)の一つで、紫外線による皮膚がんの発症を抑えているDNAポリメラーゼポリメラーゼ η の反応機構の研究を行いました。X線結晶構造解析法は、酵素の立体構造を原子レベルで決定するのに最も有用な手法ですが、酵素反応は一般的に極めて速いことなどから、酵素反応中の立体構造変化を観察した例はありません。これまでに様々な種類のDNAポリメラーゼの立体構造が明らかにされていますが、そ

の反応機構は、反応前後の構造から推測されてきました。本研究では、ヒトDNAポリメラーゼ η の結晶中で実際に反応させると、反応開始から終了まで300秒と、ゆっくり反応が進むことを発見し、ヒトDNAポリメラーゼ η がDNA合成を行っている3次元構造を反応時間毎にいくつも決定して、その様子を可視化することに成功しました。ヒトでは10種類以上のDNAポリメラーゼが、細胞内環境に応じて使い分けられています。本研究成果は、未だ不明であるこれら重要なポリメラーゼが働く仕組みの基盤となるものであり、Nature誌に掲載されました(Nakamura, T. et al. Nature 487, 196-201, 2012)。今回の派遣は、本事業に加え、日本学術振興会若手研究者海外派遣事業・組織的な若手研究者等海外派遣プログラム及び熊薬助成金による支援を受けて実施され、海外で研究を行うという大変貴重な経験をさせていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

※「熊本大学若手国際共同研究スタートアップ支援制度」・・・熊本大学において国際共同研究を展開し、国際的に活躍できる研究者を育成することにより、本学の学術研究の国際化を推進するため、優れた若手教員を海外に派遣し、国際共同研究のスタートアップを支援する制度。平成23年度に創設し、9名の教員を欧米・アジア各国へ派遣しました。

熊本留学生交流推進会議主催 ウェルカムパーティー(春)を開催

5月12日、熊本大学工学部百周年記念館で熊本留学生交流推進会議主催のウェルカムパーティー(春)を開催しました。熊本留学生交流推進会議では、熊本県内の大学・高等専門学校に新規に来日、入学した留学生が在学中の留学生、日本人学生との交流を持つ機会を提供することを目的として、毎年、春と秋に本ウェルカムパーティーを実施しています。

当日は熊本高等専門学校熊本キャンパス、嶋田国際交流委員会委員長による乾杯の音頭を皮切りに、参加した留学生、日本人学生が交流を楽しみました。また、各大学サークルのパフォーマンスとして、崇城大学よさこいサークル、熊本大学ジャンベカンによるダンスや伝統楽器を使った演奏が披露され、約280名の参加者を巻き込んだパフォーマンスに会場は大いに賑わいました。



熊本大学ジャンベカンによるパフォーマンス

「くまもとを知ろう！」 熊本城ボランティアガイド養成講座」を開催

本講座は、熊本県内の大学に在籍する留学生を対象とし、母国からの観光客が熊本を訪問した際に、自国の言葉で熊本を案内するための知識を習得する目的で、熊本留学生交流推進会議の主催により開講されたものです。

今年度は5月から7月にかけて講義4回、実地研修4回の計8回実施され、熊本大学の7名を含む17名の留学生が受講しました。

最終回となる7月14日には、熊本市国際交流会館で閉講式が執り行われ、養成講座の修了生らに熊本学園大学、司馬国際交流委員長より修了証書が授与されました。

受講生らは講義及び実地研修を通して、熊本城について学ぶとともに、熊本・日本の歴史についての理解を深めました。



講座受講生と五所直久講師

北京工業大学訪問団が谷口学長を表敬訪問



北京工業大学訪問団と谷口学長

4月16日、本学と大学間交流協定を締結している中国の北京工業大学から、郭廣生(Guo Guangsheng)学長以下5名の訪問団が谷口学長を表敬訪問しました。

北京工業大学は、1960年に設立され、化学、工学、経済学などの分野をカバーする重点大学です。また、21世紀において中国で中心となる100大学にも選ばれるなど、社会から大きな評価を得ており、さらなる発展が期待される大学です。

北京工業大学と本学は、平成24年1月に部局間から大学間に交流協定を拡大し、交換留学生の受け入れや教員の共同研究を行うなど、良好で多様な交流を展開しています。

今回の訪問は、本学が1月に上海で開催した「第9回熊本大学フォー

ラム」での学長懇談会がきっかけで実現したものであり、今後とも両大学の良好な関係を発展させるとともに、学生交流及び教員交流を着実に推進することで意見が一致しました。

また、表敬後の大学院自然科学研究科・工学部キャンパス訪問では、高島自然科学研究科長以下の幹部職員と工学分野での国際教育プログラムや共同研究に関する具体的な協議が行われ、大変有意義な訪問となりました。

協定校訪問

学生交流の更なる発展や活性化を主たる目的に、3月上旬から中旬にかけて、ラオス国立大学(ラオス)、コンケン大学(タイ)、リーズ大学(イギリス)、東亜大学校(韓国)を国際化推進センターの教職員が訪問しました。これらの大学には日本語日本文化を主専攻とする学科があり、多くの学生達が日本への留学を希望しています。今回の訪問では、学科の先生方、学生交流担当者との意見や情報の交換、日本語の授業見学、及び学生達に対する本学への留学に関する情報提供を行ないました。また、本学への留学経験者や本学から留学中の学生達とも会うこともできました。



東亜大学校の日本語の授業



コンケン大学にて本学の説明をする
今西講師(国際化推進センター)

熊本大学サマープログラム2012開催

7月30日～8月11日まで、熊本大学サマープログラム2012を開催します。本プログラムは平成19年度から始まり、今回で6回目を迎えます。

今年は、本学の学生と協定校の学生間の交流の機会を増やす事をテーマに、プログラムを企画しました。また、多くの大学から参加学生を受け入れる方向で企画し募集をかけたところ、韓国、中国、台湾、タイ、ドイツから応募があり、そのうち20校39名が本プログラムに参加する予定です。

本プログラムについて学内の関心も高く、参加者の活動を支援する学生サポーターには、学内から約50名の応募がありました。

参加学生は、7月30日からの約2週間、国際化推進センターで学生サポーターとともに、日本語クラス、日本事情の講義及び文化体験等、日本や熊本大学ならではのプログラムを体験する予定です。



昨年の様子(阿蘇見学)

大学間・部局間交流協定(平成24年1月～6月)締結分

大学間／部局間	大学名	国名	学術／学生	
大学間	忠北大学校 Chungbuk National University	大韓民国	学術／学生	
	マレーシア理科大学 University Sains Malaysia	マレーシア	学術／学生	
部局間	大学院生命科学研究所	韓国食品医薬品安全庁食品医薬品安全評価院 National Institute of Food and Drug Safety Evaluation(NIFDS), Korea Food and Drug Administration(KFDA)	大韓民国	学術
	大学院自然科学研究科	ベトナム国立自然博物館 Vietnam National Museum of Nature, Vietnam Academy of Science and Technology	ベトナム 社会主義共和国	学術
	工学部 大学院自然科学研究科	グリフィス大学工学部 Griffith University, Griffith School of Engineering	オーストラリア連邦	学術／学生
	理学部 工学部 大学院自然科学研究科	サンティエニス国立高等鉱業学校 Ecole nationale superieure des mines de Saint-Etienne (EMSE)	フランス共和国	学術／学生
	生命資源研究・支援センター	中国食品医薬品検定研究院 National Institutes for Food and Drug Control	中華人民共和国	学術
	工学部 大学院自然科学研究科	ハルビン商業大学エネルギー及び建築学院 Harbin University of Commerce, School of Energy and Civil Engineering	中華人民共和国	学術／学生
	大学院生命科学研究所、 大学院薬学教育部、薬学部	国立薬用植物・有用植物研究所 Medicinal and Aromatic Plants Research Institute (MAPRI)	スーダン共和国	学術
	大学院生命科学研究所、 大学院薬学教育部、薬学部	セント・ジョーンズ大学薬学大学院 College of Pharmacy and Allied Health Professions, St. John's University	アメリカ合衆国	学術

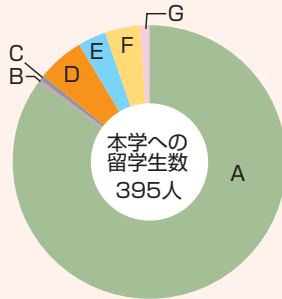
大学間交流協定：57件 部局間交流協定：78件 計135件 28カ国 (平成24年7月1日現在)

国際交流に関するデータ

留学生数

(平成24年5月現在)

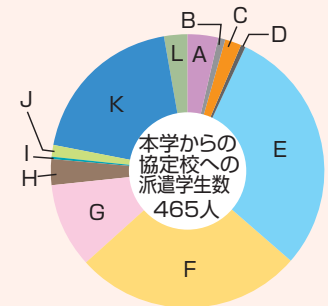
- A：アジア 336人
- B：北アメリカ 1人
- C：中南アメリカ 3人
- D：ヨーロッパ 21人
- E：中近東 14人
- F：アフリカ 16人
- G：オセアニア 4人



本学からの派遣学生総数

(昭和52年度～平成23年度)

- A：中国 17人
- B：韓国 5人
- C：台湾 9人
- D：ベトナム 1人
- E：アメリカ合衆国 137人
- F：イギリス 126人
- G：ドイツ 46人
- H：フランス 14人
- I：チェコ 2人
- J：トルコ 6人
- K：オーストラリア 90人
- L：ニュージーランド 12人



留学生受入数の推移

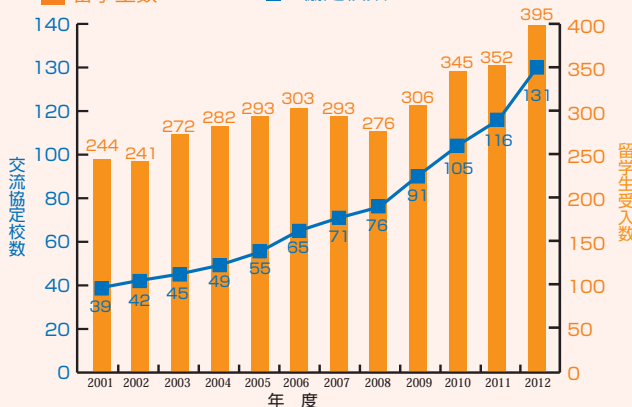
(平成24年5月現在)

■ 留学生数

交流協定校数

(平成24年5月現在)

■ 協定校数



本学教員の海外渡航数

(平成23年度)

- A：アジア 492人
- B：北アメリカ 308人
- C：中南アメリカ 9人
- D：ヨーロッパ 280人
- E：中近東 15人
- F：アフリカ 4人
- G：オセアニア 21人

